

校長室より

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」～一期一会～

入学時 特待生認証式

～努力の積み重ねと謙虚さ～

本年度1年生の入学時特待生認証式を行いました。1年生の特待生は、受験時の内申点、入学前の3月に実施した共通テストの結果をもとに認定されます。つまり、中学校3年間の日々の学習への取り組みや、受験に向けて積み重ねてきた努力の成果が評価されたものと言えるでしょう。

認証された20名の皆さんは、学力だけでなく、目標に向かって地道に努力を続ける姿勢を身につけてきたことと思います。特待生認証状を一人ひとりに手渡す際、どの生徒からも「ありがとうございます」という言葉が自然に返ってきました。評価されることを当然と思わず、周囲への感謝を忘れない姿勢に、大変頼もしさを感じました。

高校生活は、入学がゴールではなく、ここから新たなスタートです。学習、学校行事、部活動など、多くの経験を通してさらに自らを高めていってほしいと思います。そして、学力面だけでなく、日々の学校生活においても周囲の模範となる二松生へと成長してくれることを期待しています。

また、この認証は本人の努力はもちろんのこと、ご家族の支えがあってこそその成果でもあります。日々励まし、見守ってくださった保護者の皆様への感謝の気持ちも、これから先ずっと忘れずにいてほしいと思います。



合気道部 全日本合気道演武大会参観

～競い合うのではなく、高め合う武道～



5月23日(土)、日本武道館で「全日本合気道演武大会」が開催され、本校合気道部の3年生が参加しました。歴史ある武道館の舞台上、日頃の鍛錬の成果を堂々と披露してくれました。

合気道は、勝敗を争う競技武道とは異なり、「他人と強弱を争うものではなく、自己の人格の完成を願っての求道」とされています。相手を打ち負かすことではなく、互いに高め合いながら心身を鍛えることを大切にしている現代武道です。演武を見ていると、技の力強さや美しさだけでなく、相手を尊重し合う礼節や、落ち着いた所作が強く印象に残りました。日々の稽古の積み重ねが、技術だけではなく、人としての成長にもつながっていることを感じます。

二松学舎が大切にしている「心を育てる」ことは、合気道の理念にも深く通じています。知識や技術だけではなく、他者との調和を大切に、自らを律しながら社会に貢献できる人物へと成長していくこと。その姿勢は、学校生活のあらゆる場面にも生かされることでしょう。

これからも稽古を通して心を磨き、よりよく生きる力を育みながら、周囲に良い影響を与えられる存在になってくれることを期待しています。



入試相談会

～新しい出会いへの期待～

来年度本校受験を目指す中学生や保護者を対象とした外部受験相談会が、4月から始まっています。5月24日(日)には、本校志望者の多い地域でもある上野松坂屋を会場に相談会が開催されました。

本校からは7名の教職員が参加し、朝から夕刻まで84組の中学生・保護者の皆様に学校概要や教育内容について説明を行いました。会場では、時間ごとに入場した中学生たちが次々にブースを訪れ、学校生活や学習内容、部活動、進路などについて熱心に質問をしていました。担当した先生方も、一つひとつの質問に丁寧に耳を傾けながら、本校の魅力や特色を直接伝える貴重な機会となりました。

説明を受ける中学生の表情からは、「どんな学校なのだろう」という期待や緊張感が伝わってきます。進路選択は人生の大きな節目でもあります。その大切な時期に、本校を選択肢の一つとして考えてくれていることを大変うれしく思います。

こうした外部相談会をきっかけに、本校に興味・関心を持った皆さんが、今後は校内で開催される説明会や学校見学へと足を運んでくれます。明日、5月30日には第1回相談会も予定されています。初めて本校を訪れる中学生の皆さんとどのような出会いがあるのか、今からとても楽しみです。

